

令和4年度

福井小学校

「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自ら学び、伝え合う力を育てる指導方法の工夫
- 家庭と連携した自主学習・読書の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 片山 トシエ	委員
	学校長 藤本 武 教頭 林 洋美
	低学年推進員 片山 トシエ 中学年推進員 山脇 朋子 高学年推進員 栗田 佐知

校長

藤本 武

【小中連携または中高連携における共通の取組】

授業の学習課題の工夫、ホワイトボードやタブレットを使った話し合い、振り返りの仕方について共通理解する。

【各校の取組状況の把握について】

他学年または小中の教員が相互に授業参観・授業研究をし合い、アドバイス合って取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた学習環境の中で、授業中に指示された課題に真面目に取り組む学習できる児童が多い。 ●学力の二極化傾向がある。 ●語彙数が少なく、文を書いたり話したりすることが苦手な児童がいる。 ●長文を読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付ける。 ・既習の知識と関連付けたり他の学習や生活に生かしたりすることができる。 ・豊富な語彙で書いたり話したりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容や時間の構造化、情報伝達方法の工夫、ユニバーサルデザインの視点等を生かし、分かる授業・魅力ある授業を行う。(時間の流れを板書で視覚化。児童の思考のつまずきに応じた助言・ヒント。児童の考えを整理するためのツール・・・メモ・付箋・ホワイトボード・ノート等の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○できることをより伸ばし、苦手な部分を整理し、個に応じた指導を具体的にを行う。 (低学年) ○ユニバーサルデザインの視点で視覚支援・具体的操作の工夫・パターン化などを考慮した授業の組み立てに努める。 (中学年) ○机間指導で一人一人の理解度を把握し、個別指導する。 ○朝活の時間をうまく活用し国・算の基礎的な学力を伸ばす。 (高学年) ○学習習慣がくずれた児童の個別指導。キーワードを活用して学習内容をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○教室環境をシンプルに整えたことで学習に集中して取り組むことができた。 (低学年) ○個別支援が必要な児童に対する教材作り・板書などを工夫し、児童がスムーズに理解できる環境を整えられた。 (中学年) ○ポイントを大切にされた指導や支援で理解が促進され学力差が縮まった。 ○算数では自分の解法に理由をつけて説明しようとする児童が増えてきた。 (高学年) ○真面目に取り組む基礎学力を身に付けた児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○単語や短い言葉、数字や時間等の学習を日常生活の中で機を見て繰り返す。 (低学年) ○個別の課題に対応していくための教材作り・個別支援が必要な児童に対する支援を継続していく。 (中学年) ○語彙を増やし語彙力の向上につなげる。 ○読書の幅を広げさせる。 ○音読や文章を書く機会を増やし、文のつながりや要点をおさえる。 (高学年) ○丁寧に学習する習慣の徹底。 ○学習内容をまとめる時間の確保。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○方法や手順がはっきりと分かる学習では、見通しをもち意欲的に取り組むことができる。 ○友達と協働して学習することを好み、ペアやグループでの話し合いで自分の意見が言えるようになりつつある。 ●問題の要点をつかんだり、複数の情報の中から必要な情報を取り入れたりすることが苦手な児童がいる。 ●自己決定に自信がなく、全体の場で自分の考えを積極的に発表できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し手の意図を捉えながら聞くことができる。 ・自分の考えの根拠を明らかにして、条件に沿って書くこと・話すことができる。 ・話し合い活動などを通して、課題解決の方法を考えることができる。 ・自ら課題を見出し、その解決に向けた方向性を考え、他者と協力し、必要な過程を計画・実行しながら解決まで導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で自分の考えを書く・話す時間を取り、伝えたいことを整理して話し合いをさせる。(ペア・グループ学習を含む。) ・児童の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」「どうして」「それから」「たとえば」「もし～だったら」などの更なる発問を行い、児童の考えを整理したり深めたりする。 ・学校での体験活動やニュースなど機会を捉えてテーマを設定し、自分の考えを条件に沿って書いたり話したりさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○学校や家庭で体験したことを話す時間をとる。 (低学年) ○表現が苦手な児童には穴埋めのワークシートの活用や話すときのキーワードを意識できるような板書や声かけなどをする。 (中学年) ○見学して得た情報を取捨選択してまとめ、気づきや感想を書く。 (高学年) ○話し合い活動やグループ活動などの学習形態を再開する。 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○少しずつ自分の考えや感じたことを相手に伝えることができるようになってきた。 (低学年) ○話し方・書き方の手順に沿って表現できる児童が増えた。 (中学年) ○総合では、グループで伝えたいことを整理しながらまとめることができた。発表会では表現方法に工夫が見られた。 ○算数では個々の解法の違いに注目し、思考を深めることができた。 (高学年) ○自分の考えの根拠や条件に沿って書くこと・話すことができる児童が増えた。 ○パソコンを活用して発表原稿等を作る力が身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> (特支) ○タブレット端末を活用して、継続して学習に取り組んでいくための学習用アプリの選出。 (低学年) ○タブレットなどICT環境の整備。 ○ホワイトボード等を使い、自分の考えをもつ習慣を定着させる。 (中学年) ○お互いに考えを伝え合いながら、学習を深めていけるように対話学習の見直し。 ○算数では既習事項を活用して解決しようとする意欲を大切にする。 (高学年) ○語彙を増やす。 ○他者の意見を聞きながら自分の意見を再構築する力の育成。 ○新しい ICT 機器を活用しての学習。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○体験学習を好み、積極的に活動することができる。</p> <p>○家庭学習の習慣や、朝の読書の習慣が定着しており、与えられた課題については前向きに取り組むことができる。</p> <p>●自分のめあてをはっきりさせたり、自分の考えを客観的に捉えたりすることに課題がある。</p> <p>●自分から課題を見つけ、宿題以外の自主学習に取り組む児童が少ない。</p> <p>●難しい問題に粘り強く取り組むことができない児童、集中して学習するために支援が必要な児童がいる。</p> <p>●家庭学習の時間が十分に確保できていない。</p> <p>●家庭読書の時間が短い。</p>	<p>・学習課題や自主学習のめあてを考えた上、学習の見通しをイメージしたりしながら学習に取り組むことができる。</p> <p>・学習課題について自分の問いをもち、自ら働きかけ、課題を見出して解決していくことができる。</p> <p>・課題解決の経験を通して、分かる楽しさや得意な楽しさを体感し、学習に対し自信や意欲をもつことができる。</p> <p>・学習の見通しをもち、粘り強く取り組むとともに、自らの活動を振り返って学習の成果や課題を今後の生活や学習につなげることができる。</p>	<p>・何を・なぜ・どのように・学ぶのが児童に伝わるように授業や自主学習のめあてを提示する。</p> <p>・授業や自主学習で、多様な意見や考えが生まれるような学習課題を設定する。</p> <p>・難易度・分量など個人の習熟度に合わせ、宿題や自主学習に取り組ませる。</p> <p>・「自主勉強の手引き」を作成し、定期的に自主勉強ノートの評価することで、意欲が持続できるようにする。</p> <p>・「家庭学習の手引き」を全校児童に配付し、家庭と連携しながらノーゲームデーを推奨し、家庭読書の時間を確保する。</p>	<p>(特支)</p> <p>○児童に合った学習のペースで進める。</p> <p>(低学年)</p> <p>○児童のつまづきに対して個別指導し、復習の方法を具体的に教える。</p> <p>(中学年)</p> <p>○課題を明確にし、見通しをもって学習できるようにする。</p> <p>○読書・自主学習の推奨(自主勉強の内容を提案)</p> <p>(高学年)</p> <p>○理科の実験や算数で意欲的に問題解決に取り組める場を設定する。</p>	<p>(特支)</p> <p>○少しずつであるが学習時間が長くなってきた。</p> <p>(低学年)</p> <p>○学習の見通しをもつことで、意欲を持続できるようになった。</p> <p>(中学年)</p> <p>○課題に対して予想や考えをもち、主体的に学ぼうとする児童が増えた。</p> <p>○自主学習ノートに工夫が見られるようになった。</p> <p>(高学年)</p> <p>○課題に対して予想をもち、主体的に学習に取り組める児童が増えた。</p> <p>○学習することでさらなる疑問をもち、興味関心を高める児童が出てきた。</p>	<p>(特支)</p> <p>○基本的な生活習慣の定着。(低学年)</p> <p>○規則正しい生活の定着。(低学年)</p> <p>○ノーゲームデーの徹底。(低学年)</p> <p>○「自主勉強の手引き」の見直し。(中学年)</p> <p>○家庭との連携(読書・ノーゲームデー・自主勉強。)</p> <p>○IT機器の効果的な活用。</p> <p>○自らの課題を見つけ、解決していく力を高める。(高学年)</p> <p>○ノーゲームデーの推奨。</p> <p>○規則正しい生活時間の習慣化。</p>

令和2年度 学力向上ロードマップ

